

経営学部

I 2018年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2018年度大学評価結果総評】(参考)

経営学部では、グローバル化の中で変化しつつある社会の動向に対応した教育に注力していること、様々な社会貢献を行っていること、バランスのとれた教員組織を目指していることなどが高く評価される。

2018年度にはGBPの3年次プログラムがスタートし、インターンシップが開講される。GBPプログラムの完成まであと2年足らずであるが、卒業生が十分な学業成果を蓄え、無事世界に羽ばたいていくことを期待したい。さらに2019年度の新カリキュラム導入に向けて、カリキュラムツリーとカリキュラムマップの改訂などの準備作業が滞りなく進行し、有能な学生が多く入学することも期待したい。

【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

経営学部では、2018年度はGBP3年目のカリキュラムの実施と新カリキュラムへの準備を中心に、日本語プログラム・英語プログラムともに新たな取組みを進めている。2018年度秋にはGBPが3年目を迎え、3年次プログラムがスタートした。特に、GBPではインターンシップが開講され、インターンシップのオリエンテーションや協力企業への派遣を行い、初年度のインターンシップは無事終了した。また、次年度以降のGBPのインターンシップの拡大に向けて、複数の協力企業との打ち合わせや諸手続きを行っている。GBPの完成年度は2020年度であるが、完成年度に向けて、進路希望のアンケート調査や、GBPでの学習や生活全般に関する意見収集のために学生モニター制度を利用したインタビューを行い、本プログラムの現状把握および今後のプログラムの発展に役立てる予定である。さらに、2019年度から導入予定の新カリキュラムについては、教学問題委員会や教授会で検討会・勉強会を行った他、教員と在校生から編成される「新カリキュラムお助け隊」を結成して2019年度以降の新入生の質問に対応する準備を進めている。新カリキュラムのカリキュラムツリーとカリキュラムマップの改訂を行い、近日中に公開する予定である。

【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

経営学部では、GBP(Global Business Program)の3年次プログラムの実施と新カリキュラムの準備が進められ、2018年度大学評価委員会の評価結果に適切に対応している。GBPでは、インターンシップが開講し、次年度以降の協力企業の拡充が期待される。また、完成年度に向けて、進路希望調査および学生モニターを利用した現状把握に努めており、今後のプログラム発展に向けた取組みが期待される。2019年度から導入の新カリキュラムについて、教員による検討会・勉強会に加え、教員と在校生が協力した取組みが試みられており、興味深い。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2019年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開講し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S A B

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

1年次には基礎科目0群、入門演習、専門基礎科目A群などにより、基本的な調査・研究・プレゼンテーション能力等の導入教育、経営・経済学の入門的な内容などを教育している。2年次の専門基礎科目B群は入門的な経営学と専門的な経営学の橋渡しとなるような科目を配置し、3年次からは専門性を高められるよう学科専門科目を配置している。さらに、2～4年次の専門演習(ゼミ)では、少人数の環境で、講義科目で学んだことを応用したり深化させたりすることができる。

また、グローバル化対応として、入門外国語経営学、外国語経営学、ネイティブによるビジネス英語や国際コミュニケーション論などの科目を配置し、スタディ・アブロード(SA)プログラムも実施している。さらに、キャリア教育として、インターンシップ、キャリアマネジメント論、検定会計などの科目や特殊講義として各界からの寄付講座を設けている。

【2018年度に改善された事項及び新規取組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

- ・2019年度から施行される予定の新カリキュラムについて、教育課程の編成や教育内容を確認するなどの準備を行った。
- ・また、2019年度以降、新カリキュラムの教育課程や教育内容について学生から様々な質問が出ることが予想されるため、

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>経営学部の教職員と在校生で編成される「新カリキュラムお助け隊」を結成し、新カリキュラムに関する勉強会を行うなどの準備を行っている。</p> <p>・新カリキュラムのカリキュラムツリー・カリキュラムマップは改訂を行い、近日中に内容を公開する予定である。</p>	
<p>【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等</p> <p>・法政大学経営学部のカリキュラムツリーの公開ホームページ： https://www.hosei.ac.jp/keiei/shokai/curriculum-tree.html</p> <p>・法政大学経営学部のカリキュラムマップの公開ホームページ： https://www.hosei.ac.jp/keiei/shokai/curriculum-map.html</p>	
②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系的性を確保していますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>一般教育科目では、1年次から導入教育、外国語・教養教育を目的とした科目を学ぶ。</p> <p>専門基礎科目A群では、1年次に3学科共通の経営・経済・会計・情報の基礎を学ぶ（設置科目の半分以上の単位修得が必須）。専門基礎科目B群では、2年次に各学科の基本となる科目を学ぶ（設置科目の半分以上の単位修得が必須）。これらの科目を修得した上で、3年次、4年次に各学科の専門科目を学ぶ（自学科専門科目の16単位以上の修得が必須）。さらに、外国語経営学、キャリアプログラム科目、特殊講義を設け、専門科目を補強している。</p> <p>演習（ゼミ）は、1年次に入門演習があり、2年次から専門演習を履修できる。いずれも必修ではないが、3年次生の専門演習の履修率は2012年度以降約7割である。</p> <p>なお、2016年9月にスタートしたGBPのカリキュラムでは、1年次に経営学および関連基本科目の入門、英語で学ぶための基本スキル科目等を配置し、2年次以降に発展・応用科目や、日本の経営の実際を学ぶためのワークショップやインターンシップ等を配置している。</p>	
<p>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>2019年度に施行予定の新カリキュラムについて、新たに開講される1年次の専門入門科目や新たに選択必修化される入門外国語経営学などの科目の配置・位置づけ・内容等を教学問題委員会（4月～9月）や教授会（2月・3月）で検討し、最終調整を行った。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・「2018年度 経営学部 履修の手引き」、「2018年度 経営学部 講義概要（シラバス）」</p>	
③幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <p>1・2年次を中心として語学（英語、第二外国語）、人文・社会・自然科学分野の諸科目など一般教育科目が多数配置されており、卒業所要単位の3分の1を占めている（卒業所要単位132単位中、44単位以上）。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・「2018年度 経営学部 履修の手引き」、「2018年度 市ヶ谷基礎科目・総合科目 講義概要（シラバス）」</p>	
④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>初年次科目としては、入門演習を開講し、1年次生に対して大学での学びの方法について指導している。2007年度は通年5コマであったが、2018年度は半期19コマまで増やし、少人数による初年次教育の中核的授業となっている。また、経営学の体系を鳥瞰する専門基礎科目として経営学総論が5コマ開講されている。</p> <p>さらに、高校までの数学と大学の経営・経済学関係分野で用いる数学の橋渡しの内容を意図して、2016年度以降、「基礎数学」の授業を開始した（経営学部生は1年次から履修可）。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・「2018年度 経営学部 講義概要（シラバス）」、「2018年度 市ヶ谷基礎科目・総合科目 講義概要（シラバス）」</p>	
⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>学部創設以来外国語経営学の講義を行っている。2018年度は、主に1年次生を対象とした「入門外国語経営学Ⅰ／Ⅱ」（初級・中級）を12コマ、3-4年次生を対象とした「外国語経営学Ⅰ／Ⅱ」を3コマ、ネイティブ・スピーカーによる「ビジネス英語Ⅰ／Ⅱ」を4コマ開講している。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>また、SAプログラムでは、アメリカ・ネバダ大学リノ校（16週間）とオーストラリア・モナシュ大学（11週間）に毎年、各校15名ずつ計30名の学生を送り出している。加えて、SAプログラムに向けた語学関連授業として「Skills for SA」を春学期に1コマ（2単位×2クラス）開講している。</p> <p>さらに、2016年9月に創設した英語学位課程GBPの大半の科目をグローバルオープン科目とし、日本語学位課程の学生も受講できるようにしている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「GBP Guide 2017 Fall-2018 Spring」、「GBP Syllabus 2017 Fall-2018 Spring」 ・「Student Handbook GBP/SCOPE/IGESS Fall 2018-Spring 2019」 	
⑥学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。	S A B
<p>※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>キャリア教育科目としては、キャリアマネジメント、国際コミュニケーション論、検定会計、インターンシップがある。中でも1995年に開講したインターンシップは、多様な業界の企業と連携した最も古いキャリアプログラム科目である。</p>	
<p>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>英語学位プログラムGBPのインターンシップを開講した。また、今後のGBPのインターンシップの充実のため、協力企業との連携・調整を引き続き行っている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S A B
<p>【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次生についてはオリエンテーション時に基礎科目、専門科目、情報科目に分けてガイダンスを行っており、ほぼ全員が参加している。同時にインターンシップやSAプログラム等の学部独自プログラム、経営学部生の多くが受講する会計専門職講座についても説明している。 ・新2年次生を対象に年度末（3月末）に、2年次以降の専門科目や専門演習、語学科目の履修の仕方や注意点などに関して履修ガイダンスを行い、500名以上の学生が参加している。 	
<p>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>英語学位プログラムGBPのインターンシップ開講に際し、GBPの対象学生に向けて6月にインターンシップのオリエンテーションを行い、企業での就労体験の目的やインターンシップの注意点などに関して説明した。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「2018年度 経営学部講義概要（シラバス）」 	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S A B
<p>※取り組み概要を記入。</p> <p>教員がそれぞれの担当授業やゼミ、オフィスアワー等で、学生からの申し出に対応して行う指導が中心である。そのほかのチャンネルとしては学部事務窓口や執行部による指導がある。また、2013年度から、年2回、成績不振者またはその保証人に面談を実施し、学習指導を行っている。</p>	
<p>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>成績不振者面談は、対象者を従来の1・2年生に加えて、3年生まで拡大して実施した。さらに、英語学位プログラムGBPについては、学生が学習だけでなくコミュニケーションの問題を抱えている場合もあるため、成績不振者に該当しない場合であっても、授業の担当者等から懸念点が指摘された場合は、執行部が学生と面談を実施し、学習指導を行った。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	S A B
<p>※取り組み概要を記入。</p> <p>個別の講義に関しては、シラバス等を通じて予習と復習の指導を行っている。そうした予習復習の学習時間を確保するため、科目群毎や年次毎に履修科目の登録上限が設定されており、過度の履修申請を防止している。さらに、2012年度には進級規程を改正し、年間の取得単位の上限を49単位とし、予習・復習の学習時間を確保できるようにしている。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
・特になし	
④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S A B
【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。	
<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ：春学期にインターンシップ派遣先の企業から講師を招いて座学で業界の状況等を学んだ後、夏休みに実際に企業に出向いてインターンシップを実施し、終了後に報告会を開催して単位が認定される。 ・インターンシップ以外にも企業等から講師を招いて単発的に講義をしてもらう授業がある。 ・また、毎年2～3科目寄付講座を開講し、実務家による講義を行っている。 ・さらに、通常の講義でもアクティブラーニングを取り入れているものがある。 	
【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・経営学部の専門科目の一部において、リアクションペーパーのオンライン化を導入した。 ・2019年度のシラバスにおいて、アクティブラーニングやフィールドワークの採用の有無を記載した。 ・2019年度の経営学総論でオンデマンド授業を採用することを決定した。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・「2018年度 経営学部講義概要（シラバス）」 ・法政大学 Web シラバス 2019年度 ・2018年度中期目標・年度目標達成状況報告書（経営学部） 	
⑤それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S A B
※どのような配慮が行われているかを記入。	
<p>「講義」形態の授業のうち、専門基礎科目A群、同B群など多くの学生が同一科目を履修する場合は2～6クラス設け、1クラスあたりの受講者数が200～300名以内となるよう努めている。一方、講義科目で受講者数が過少（10人以下）となることは希だが、そうした場合は開講曜日・時限、内容等の工夫を行い、改善に努めている。また、専門演習の履修者数は、ゼミによって5～42人とばらつきがあるが、その大半は平均である23.1人の前後に分布している（人数は2018年度のもの）。</p>	
【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
<p>英語学位プログラム GBP は少人数クラスを特徴としているが、年々、履修者が増加している。授業によっては他プログラムからの履修希望者が多く、キャパシティを超える可能性が出てきたため、GBP 小委員会において適切な履修者数を確保できるよう対応策を検討し、経営学部教授会において審議承認を得た。また、履修者が大幅に増えた場合の履修制限の可能性について、2018年度秋学期には Web に掲示して告知し、2019年度春学期よりシラバスに明記することになった。なお、経営学部生および GBP 生に対しては優先的に履修できるような配慮を行い、他学部をはじめとする関係部局や学生に対しては履修の優先ルールについて予め伝えるなどの配慮を行っている。</p>	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学 Web シラバス 2019年度 ・法政大学経営学部ホームページ「【重要】GBP 専門教育科目の履修条件の変更について」 https://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/keiei/NEWS/2018/syllabus_20180824.pdf 	
1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S A B
【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・各科目の成績評価は科目担当教員の責任で行われている。成績評価の方法と基準はシラバスに明示されており、それらに従って講義や演習など授業形式に応じて試験やレポートなどの結果で成績評価が行われている。 ・一方、学生はその成績（DまたはEの場合）に疑義があれば調査を申し立てる制度がある。そこで成績評価が変更される場合、教員にその理由の説明文書と信憑書類の提出を求め、教授会で審議の上承認する。 ・なお、英語に関しては TOEIC や TOEFL 等の試験結果に応じて単位認定をする制度がある。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
・特になし	
②厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	S A B

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>※取り組み概要を記入。</p> <p>教授会において、学部別の GPCA 集計表が配付され、各教員はそれに基づいて自分の担当授業の成績評価を検証している。また、事後に採点を訂正する場合は、当該の試験答案などを教授会で回覧しチェックした上で承認している。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
③学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <p>学生の就職状況に関しては、学部長会議で定期的に報告される資料に基づき、教授会で報告しているほか、適宜、学科毎の就職状況など、より詳細な情報をキャリアセンターから取り寄せて教授会メンバーに提供している。</p> <p>GBPについては、2020年度に第1期の卒業生を迎える予定であるが、GBPの学生の多くは海外からの留学生であるため、彼らの卒業後の就職・進学希望先について早い段階で認識することを目的として、2018年度にアンケート調査を行った。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <p>・現状で各教員が把握できるのは、自分の担当科目と全学及び経営学部全体の GP 分布である。また、執行部は必要に応じ、個別科目の成績分布を把握することができる。</p> <p>・進級については年度末に実施される進級判定教授会で情報を共有している。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>SA 派遣やインターンシップについてはプログラム終了後に報告会や効果測定が行われている。さらに、専門演習では、卒業論文（卒業レポート）を課す場合が多く、それによって担当教員は4年間の学習成果を測定・検証できる。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用等）。</p> <p>現状では、個別学生の学習成果は単位修得科目やその成績によって把握している。ただし、個別の教育プログラムではそれ以外の成果把握・評価も行われている。例えば、1年次に全学生を対象に英語のアセスメント・テストを受験させており、英語授業のレベル分けなどに利用されている。さらに、2017年度より、卒業生の寄付によって創設された給付型奨学金制度「赤坂優奨学金」において、優れた起業・ビジネスプランを提出した者に対し、書類審査と面接選考を用いて評価する仕組みを導入している。</p> <p>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>1年次を対象とする英語のアセスメント・テストを TOEFL から ELPA に切り替えた。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・法政大学経営学部ホームページ「2018年度 法政大学経営学部赤坂優奨学金について」 https://www.hosei.ac.jp/keiei/NEWS/zaigaku/180417_01.html</p>	
④学習成果を可視化していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等。</p> <p>・約75%の専門演習で卒業論文（ゼミ論文）を必須としており、全体の6～7割のゼミではその成果を冊子として印刷したり、電子データとしてゼミ生に配付したりしている。</p> <p>・また、ゼミによっては、その成果をインターゼミ大会で報告したり、学内外の懸賞論文に応募したり、さらにはビジネ</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基礎的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

スプランをコンテストに応募したりしている。	
【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ゼミの中には、これまで学んだ知識を活かし、企業と協力しながら商品を企画・発案し、期間限定でコラボレーション商品を販売するなどの実践的な取り組みを行っている。 経営学部のゼミがビジネスプランのコンテストで受賞し、「開かれた法政 21」 学術・文化奨励金採用者として採用された。 経営学部生が学外の学術学会で受賞し、「開かれた法政 21」 学術・文化奨励金採用者として採用された。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> 法政大学経営学部ホームページ「「開かれた法政 21」 学術・文化奨励金授与式及び懇親会を実施しました」 http://www.hosei.ac.jp/koho/photo/2018/190227.html 法政大学経営学部ホームページ「小川孔輔ゼミがナチュラルローソンとコラボ商品を開発しました」 	
1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。	
<p>教育成果の検証は、基本的には各学期末に行われる「学生による授業改善アンケート」結果に基づき教員各自が行っている。「この授業を履修してよかったと思いますか」という質問に対し、2018年度春学期は59%、同秋学期は65%が「はい」と回答している。</p> <p>卒業生アンケートによると、経営学部に対する満足度は2013年度80.9%、2014年度81.7%、2015年度82.0%、2016年度84.6%、2017年度81.2%と回答している。</p>	
【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
2018年度には英語学位プログラム GBP の学生を対象に、学生モニター制度を利用したインタビューを実施し、授業運営・カリキュラム・プログラムの教育課程・生活全般に関する意見を聞いた。インタビューの結果を踏まえて、今後、GBP の改善・向上がどのような形で可能か、検討したい。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> 「学生による授業改善アンケート」、「卒業生アンケート」 法政大学教育開発支援機構「2018年度「学生モニター制度」によるヒアリングを実施」 https://www.hoseikyoku.jp/back_number/index.php?c=topics_view&pk=1554079259 	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※利用方法を記入。	
<p>「学生による授業改善アンケート」の集計結果は、まずは各教員が検証し、授業改善に役立てている。</p> <p>また、学生の満足度が高い授業を行っている教員に報告者を依頼して研修会（FD 懇談会）を実施している。</p>	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
・特になし	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> 2019年度から施行される予定の新カリキュラムについて、教育課程や教育内容についての確認、科目の配置・位置づけ・内容についての議論を行い、教職員と在校生で編成される「新カリキュラムお助け隊」を結成して勉強会を実施するなど、準備を進めている。新カリキュラムのカリキュラムツリー・カリキュラムマップを改訂し、近日中に内容を公開する予定である。 英語学位プログラム GBP のインターンシップを開講し、学生が日本の企業への就業体験を英語で行う機会を設けた。 成績不振者面談を従来の1・2年生に加えて3年生も対象とし、英語学位プログラムについては、成績不振者に該当しない場合であっても、学力や生活面で不安がある場合には面談を適宜行った。 アクティブラーニングやフィールドワークの有無についてシラバスに明記し、リアクションペー 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>パーのオンライン化を進めた。加えて、2019年度からオンデマンド授業を導入することを決定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数教育を特徴とする英語学位プログラム GBP において、履修者がキャパシティを超えた場合の履修のルールを制定し、関係部局が学生にも予め告知するなどの配慮を行った。 ・2018年度には英語学位プログラム GBP の学生を対象に、学生モニター制度を利用したインタビューを実施し、GBP での学習や生活全般などについて広く意見をきいた。 ・ゼミの一部では、企業と協力して新商品を発案・企画・販売し、ビジネスプランのコンテストで受賞するなど、学習成果の可視化に対する積極的な取り組みを行っている。 	
--	--

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

①教育課程・教育内容に関すること (1.1)

<p>経営学部では1年次に基本的な調査・研究・プレゼン能力等の導入教育、経営・経済学の入門が配置され、2年次には専門的な経営学の橋渡しとなる科目が配置されるなど、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されている。2019年度に導入される新カリキュラムでは、専門入門科目等の配置等が教学問題委員会や教授会で検討され、カリキュラムの順次性・体系的が確保されている。また、教養教育科目が多数配置されており、豊かな人間性を涵養する教育課程にも配慮されている。さらに、経営・経済学分野で必要となる数学と高校数学の橋渡しとなる基礎数学が開講されるなど、初年次教育・高大接続への配慮がなされている。SAプログラムの実施、およびGBP科目のグローバルオープン科目化など、国際性を涵養するための教育内容も提供されている。2018年度にはGBPのインターンシップが実施されるなど、キャリア教育にも適切な取り組みが見られ、今後も多様な業界の企業との連携が期待される。</p>

②教育方法に関すること (1.2)

<p>経営学部では、1年次生には基礎・専門・情報科目に関するガイダンス、2年次生には専門科目の履修ガイダンス、GBP対象学生にはインターンシップのオリエンテーションが用意され、履修指導は適切に行われている。さらに2019年度からは、新カリキュラムの導入にあわせて結成された「新カリキュラムお助け隊」(教員と学生で構成)により、新入生の科目履修や時間割の組み方などに適切なアドバイスが行われており、新入生の体系的な科目履修を促すための取り組みとして高く評価できる。オフィスアワー等の指導に加えて、成績不振者面談を1~3年次まで実施するなど、適切な学習指導体制がとられており、評価できる。また、過度の履修申請を防止する方策がとられ、学習時間の確保も配慮されている。1クラスあたりの受講者数の制限、特にGBPの特徴である少人数制クラス維持のための配慮も行われている。リアクションペーパーのオンライン化、アクティブラーニングの採用など効果的な授業形態の導入への取り組みは高く評価できる。</p>

③学習成果・教育改善に関すること (1.3~1.5)

<p>経営学部の成績評価の方法と基準はシラバスに明示され、成績に対する申し立て制度も整っており、成績評価と単位認定は適切に運用されている。また、各教員がGPCA集計表を基に自身の成績評価を検証し、採点の訂正時には教授会での承認を経るなど厳格な成績評価の方策がとられている。学生の就職状況は教授会メンバーで共有している。特に、留学生の多いGBPにおいては、アンケート調査を早い段階で実施する等の工夫がなされている。各教員は担当科目と全学及び経営学部のGP分布を把握し、進級状況が教授会で共有されている。4年間の学生の学習成果は、多くの場合、卒業論文によって測定されている。具体的な学習成果は、単位修得科目とその成績によって把握されている。2018年度より、英語授業のレベル分けにELPAによるアセスメント・テストが導入された。専門演習で課される卒業論文の一部は紀要として刊行し広く配布しており、学内外での発表も行われている。さらに、企業と協力してコラボレーション商品を販売するなど、学習成果を可視化する仕組みがある。学習効果の検証には授業改善アンケートが用いられており、GBPでは学生モニター制度を利用したインタビューが行われた。また、アンケート結果は各教員が検証して、改善に利用しているが、組織的な活用も期待される。</p>
--

2 教員・教員組織

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

【2019年5月時点の点検・評価】

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。

S A B

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

- FD活動の内容に応じて分権的な体制で行っている。
- 研究面では、学部の紀要『経営志林』を年4回発行（毎年、各教員の研究業績一覧を掲載）。年に数回、「経営学会」主催で教員の研究発表会を開催。
- 教育面では、授業改善アンケートの結果を学部長が閲覧。その結果も踏まえ、2011年度以来、毎年秋に「FD懇談会」を開催し、好事例や問題点の共有、改善提案等を行っている。授業参観は学部執行部が中心となり、他の教員も勧誘して実施。また、質保証委員会も独自の立場で授業改善提案を提示することがある。

【2018年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

- （経営学会主催の研究会）
 - 2018年6月22日（金）猪狩良介 専任講師「マクロデータとマイクロデータの統計的データ融合と購買履歴データ分析への応用」
 - 2018年6月29日（金）菊池かおり 専任講師「モダニティと空間の政治的意味」
 - 2018年7月27日（金）高橋慎 准教授「株価指数先物の気配更新データを用いた価格変化と注文不均衡の実証分析」
 - 2018年10月26日（金）佐野嘉秀 教授「人事管理の日英比較：百貨店の事例研究」
 - 2018年11月30日（金）大下勇二 教授「連単分離の会計システム-フランスにおける2つの会計標準化-」
 - 2018年12月21日（金）岸真理子 教授「企業経営における組織の情報処理」
- （FD懇談会）
 - 2018年9月14日（金）15：30～17：00「学生による授業改善アンケートについて」と「新カリキュラムにおける入門外国語経営学の在り方について」BT16F 経営学部会議室。参加人数 20名。

【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

2019年2月および3月の経営学部教授会の冒頭において、経営学部の全専任教員を対象に、新カリキュラムに向けた勉強会・検討会を実施した。2月の教授会では、新カリキュラムの詳細について学務部事務による説明会を行った。特に、新カリキュラムにおいて選択必修化するグローバルビジネス・GBP科目の在り方について様々な意見が出たため、3月の教授会でも検討会を行った。

また、2018年度は、法政大学経営学会とイノベーション・マネジメント研究センターと共催で、外部講師を招いたワークショップを開催した。内容は下記の通りである。

- （経営学会共催のワークショップ）
 - 2018年6月28日（木）18時40分～20時10分「What's Forensic Accounting?」講師：Professor Wm. Dennis Huber (Capella University)、コメンテーター：Dr. Connie O' Brien (Minnesota State University)、通訳者：中島真澄（金沢学院大学教授）、司会：福多裕志（法政大学経営学部教授）、BT25階イノベーション・マネジメントセンターセミナー室

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- 特になし

②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。

S A B

※取り組みの概要を記入。

上記2.1①で示した通り、毎年、年に数回、教員の研究発表会を開催している。また、紀要『経営志林』を年4回発行し、各教員の1年間の研究業績を掲載している。また、経営学部教授会では、毎回、教員の海外出張の渡航先・目的・期間を報告している。

経営学部では、法政大学経営学会やイノベーション・マネジメント研究センターをはじめとする様々な組織と協力しながら、年に数回、研究や企業の最先端で活躍する講師を招いて、講演会やシンポジウムを開催している。

【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

2019年度に予定している法政大学経営学部創設60周年記念事業の一環として、2018年10月26日（金）に法政大学・野村証券合同講演会「Economic Monetary Policies in an Increasingly Globalized Economy（経済グローバル化のもとで安定成長を実現する有効で望ましい金融・経済政策とは何か?）」を実施した。また、2019年度に行う経営学部創設60周年記念事業に向けて、実践知をキーワードとするリレー形式の講演会など、さまざまな企画・準備を行っている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- 法政大学経営学部ホームページ「法政大学・野村証券合同講演会のお知らせ（経営学部創設 60 周年記念事業）」
<http://keiei.ws.hosei.ac.jp/topics/20181005327.html>

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> 2019 年度から施行予定の新カリキュラムに関して、全教員を対象とする勉強会・検討会を複数回開催した。 海外から講演者やコメンテーターを招聘し、法政大学経営学会とイノベーション・マネジメント研究センター共催のワークショップを開催した。 2019 年度に予定している法政大学経営学部創設 60 周年記念事業に向けたプレ講演会を開催し、さらに同事業に向けて、様々な企画・準備を行っている。 	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

経営学部における FD 活動は、研究面と教育面それぞれについて適切に行われている。2018 年度には 6 回の経営学会主催の研究会、および 1 回の FD 懇談会が開催された。これに加えて、経営学会とイノベーション・マネジメント研究センターと共催でワークショップを開催するなど、積極的な FD 活動への取り組みは高く評価できる。また、教員による研究発表会、紀要『経営志林』の発行、全教員を対象とする新カリキュラムの検討会・勉強会を開催する等、これらの積極的な取り組みも評価できる。2018 年度には法政大学・野村証券合同講演会を開催し、2019 年度の創設 60 周年に向けた企画が進行しており、活発な研究活動が期待される。

III 2018 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】							
1	中期目標	新カリキュラムへの移行に伴い、1 年次から経営学の入門的な内容を分野別に広く学ぶ仕組みを実現させる。							
	年度目標	2019 年度に開始予定の新カリキュラムに対応したカリキュラムポリシーやカリキュラムツリー・カリキュラムマップを改訂し、初年次専門科目の具体的な授業内容・授業担当者・時間割を決定する。また、新旧カリキュラム併存期間における科目の読み替えに関する具体案を決定する。							
	達成指標	主に初年次科目を担当する教員で構成されるプロジェクトチームを立ち上げ、プロジェクトチームのメンバーを中心に各グループで具体的な内容を検討してまとめ、検討結果を教学問題委員会および教授会で審議・決定する。							
	年度末報告	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">教授会執行部による点検・評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自己評価</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>今年度の教学問題委員は、新カリキュラムの初年次科目である専門入門科目 8 分野からそれぞれ 1~2 名の若手教員を中心に構成され、主に春学期の委員会では新カリキュラムについて話し合う機会が設けられた。また、教学問題委員のメンバーを窓口として、新カリキュラムの専門入門科目毎にユニット（グループ）が形成され、各ユニットで専門入門科目の担当者・時間割・授業内容などが検討された。さらに、新カリキュラムの履修に関する様々な問題点を学生と教員で検討するワーキングチームが結成され、2019 年度から「お助け隊」として新入生の履修相談に関わる予定である。</td> </tr> <tr> <td>改善策</td> <td>新カリキュラムの専門入門科目は 2019 年度から開講される。開講すれば、現時点では挙がっていない問題が生じる可能性があるが、それらの問題点は、その都度、担当者間および学部全体で協議・対応し、情報収集・情報共有に努めていく。また、2020 年度からは新カリキュ</td> </tr> </tbody> </table>	教授会執行部による点検・評価		自己評価	S	理由	今年度の教学問題委員は、新カリキュラムの初年次科目である専門入門科目 8 分野からそれぞれ 1~2 名の若手教員を中心に構成され、主に春学期の委員会では新カリキュラムについて話し合う機会が設けられた。また、教学問題委員のメンバーを窓口として、新カリキュラムの専門入門科目毎にユニット（グループ）が形成され、各ユニットで専門入門科目の担当者・時間割・授業内容などが検討された。さらに、新カリキュラムの履修に関する様々な問題点を学生と教員で検討するワーキングチームが結成され、2019 年度から「お助け隊」として新入生の履修相談に関わる予定である。	改善策
教授会執行部による点検・評価									
自己評価	S								
理由	今年度の教学問題委員は、新カリキュラムの初年次科目である専門入門科目 8 分野からそれぞれ 1~2 名の若手教員を中心に構成され、主に春学期の委員会では新カリキュラムについて話し合う機会が設けられた。また、教学問題委員のメンバーを窓口として、新カリキュラムの専門入門科目毎にユニット（グループ）が形成され、各ユニットで専門入門科目の担当者・時間割・授業内容などが検討された。さらに、新カリキュラムの履修に関する様々な問題点を学生と教員で検討するワーキングチームが結成され、2019 年度から「お助け隊」として新入生の履修相談に関わる予定である。								
改善策	新カリキュラムの専門入門科目は 2019 年度から開講される。開講すれば、現時点では挙がっていない問題が生じる可能性があるが、それらの問題点は、その都度、担当者間および学部全体で協議・対応し、情報収集・情報共有に努めていく。また、2020 年度からは新カリキュ								

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

		ラムの2年次科目が開講される。2年次までに履修できる専門科目が大幅に増えるため、新旧カリキュラムが同時並行する間は特に混乱が生じる可能性がある。来年度以降、そのための対策を十分に行う必要がある。
		質保証委員会による点検・評価
	所見	<ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムのスタートに向けて、まず初年次教育の準備が着実に進められており、おおむね年度目標を達成しているものと評価できる。 ・新カリキュラムについては、事前に全ての問題点を見通すことはできない。したがって、スタンスとしては2019年度以降、問題点の把握に努めるとともに、適宜、適切な解決策を考え、実施していくことが肝要。
	改善のための提言	<ul style="list-style-type: none"> ・執行部が改善案に示したとおり、今後の新旧カリキュラムの同時並行、2年次以降の新カリキュラム教育の準備を滞りなく着実に進めてもらいたい。 ・現状では、左記のPDCAサイクルが制度的に確立しているとは言い難い。誰がどう情報把握し、どのような形で教授会メンバーと情報共有するのか等は予め決めておいた方がよい。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
2	中期目標	英語で専門科目を学ぶ機会を増やす
	年度目標	GBPの3年次プログラムをスタートさせる。
	達成指標	少人数科目のGBPの各授業で履修者数が極端に少ない状況を避ける。GBP以外の経営学部生によるGBP授業の履修を促進させる。
		教授会執行部による点検・評価
	自己評価	A
	理由	GBPは1学年あたり定員10名の小規模プログラムであるが、GBPの1クラス当たりの平均履修者数は14名であった。また、履修者数が5名未満の授業は37クラス中3クラスであり、履修対象が2年次以上の中級レベルの授業とインターンシップであった。GBP以外の経営学部生によるGBP授業の履修者は2017年度は65名、2018年度は92名（いずれものべ人数）であり、順調に増えている。
	改善策	GBPは、2018年度春学期に2学年、同秋学期に3学年が揃い、上級生が中級レベルの授業を履修し始めたところである。4学年の揃う完成年度に向けて、GBPの中級レベルの履修者数も増えると考えられる。インターンシップについては、別項目に記載したように、2019年度は派遣先が拡大し、履修者数も増えると予想される。GBP以外の経営学部生によるGBP科目の履修者数は増加しており、新カリキュラムではGBP科目は選択必修科目の1つに位置づけられるため、今後の履修者は一層増えると考えられる。また、GBPに関しては、経営学部生に英語でビジネスを学ぶ機会を充実させると共に、他の英語プログラムとの連携について、互いの資源を有効に活用して魅力的なプログラムの構築が可能かどうか、検討を始めたい。
		質保証委員会による点検・評価
	所見	<ul style="list-style-type: none"> ・英語で専門科目を学ぶ機会を増やすという中期目標は着実に達成されつつあり、年度目標に係る達成目標もおおむね達成しているものと評価できる。GBPの各授業の履修者数は今後さらに増えるものと見られる。 ・通常の経営学部生によるGBP授業の履修は増加トレンドにあるようなので、当面その推移を見守りたい。
	改善のための提言	<ul style="list-style-type: none"> ・執行部の示した改善案を着実に進めてもらいたい。 ・受講生が極端に少ない授業は、内容の工夫や隔年開講化等を考えてもよいが、まだ時期尚早である。他プログラム等との連携についても、本プログラム自体、まだ揺籃期にあるため、（特に経営学の専門授業については）慎重に考えて頂きたい。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
3	中期目標	英語で専門科目を学ぶ機会を増やす
	年度目標	2019年度に開始予定の新カリキュラムに向けて、多様な英語関連科目（外国語経営学・グローバルビジネス・GBP科目群など）の具体的な内容を検討し、英語教育の充実を図る。
	達成指標	教学問題委員会および教授会で新カリキュラムの英語関連科目の履修モデルと授業内容を検

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		討する。また、新カリキュラムでの英語関連科目の準備段階として、ERP（英語強化プログラム）の単位認定をスタートさせる。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	2019年度に開始予定の新カリキュラムでは、グローバル・ビジネス/GBP科目群が必修化される。その中でも、特に、最も基礎的な科目である入門外国語経営学の履修者がこれまで以上に大幅に増加することが予想されるため、開講コマ数を増やして対応する。同科目の位置づけやレベルの設定については7月の教学問題委員会で検討された。また、グローバル・ビジネス/GBP科目群の履修モデルについては2月の教授会において学務部から全教員に向けて説明が行われた。ERPの単位認定は、2018年度からスタートした。
	改善策	入門外国語経営学は、今年度12コマから来年度23コマに大幅に増コマすることで必修化への対応を行う予定であるが、教養必修科目や専門入門科目との兼ね合いなど時間割の関係上、履修者がどのクラスにどの程度偏るかは、現時点では不明である。2019年度においては、クラス指定で対応を行う予定であるが、予想をはるかに超えた履修者が殺到した場合には、他の方法についても検討する必要がある。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	<ul style="list-style-type: none"> ・年度目標に係る達成目標はおおむね達成されているものと評価できる。ただ、大幅な増コマが予定される入門外国語経営学に関して、どの分野をどの程度のコマ数とレベルで行うのかなど、授業内容についてある程度合意しておく必要があるのではないかと。また、過去の外国語経営学Ⅰ・Ⅱ（必修）の廃止の経緯を考えれば、担当者と負担の問題が生ずることが予想される。 ・これはなかなかの難問である。まずは、2019年度の様子を見て、そこから考えるしかない。
	改善のための提言	<ul style="list-style-type: none"> ・大幅増コマに伴う入門外国語経営学の授業内容のある程度の標準化と担当者の問題を教授会で議論してもらいたい。 ・本問題の背景には、市ヶ谷キャンパスにおける教室利用の過密状態がある。経営学部単独での解決は困難であり、他学部との調整、法人の対応等が必要になる。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
4	中期目標	新カリキュラムへの移行に伴い、シラバスの標準化を目指す。
	年度目標	2019年度に開始予定の新カリキュラムのシラバスを作成し、シラバスの標準化の検討を行う。また、シラバスの英語化に向けて取り組みを始める。
	達成指標	原稿が印刷される前に執行部がシラバスのチェックを行い、記述漏れや不統一がある場合は、担当教員に修正を要請する。また、教学問題委員会および教授会でシラバスの標準化を検討する。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	2019年度のシラバスが担当教員によって作成され、執行部にてシラバスのチェックを行い、シラバスの標準化について学部全体で取り組んでいる。また、2月・3月の教授会にて、新カリキュラムのシラバスについて検討を行う予定である。各科目の概要についてはシラバスの英語化が達成された。
	改善策	シラバスの概要以外の項目についての英語化を検討する。また、シラバスの標準化に向けて、執行部を中心に、学部全体で進めていく。新カリキュラムに対応したカリキュラムツリー・カリキュラムマップは、3月以降に改訂を行う予定である。
質保証委員会による点検・評価		
所見	<ul style="list-style-type: none"> ・年度目標に係る達成目標をおおむね達成しているものと評価できる。 ・シラバスの精緻化、統一化はここ数年、大きく進展している。ただし、それが教育の質向上と同義ではないことにも留意する必要がある。 	
改善のための提言	—	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
5	中期目標	アクティブ・ラーニングを一層進めていく。	
	年度目標	反転授業の導入を検討する。	
	達成指標	一部の科目で、オンデマンド授業の採用やリアクションペーパーのオンライン化の導入を検討する。また、授業で用いるアクティブ・ラーニングの具体的な手法をシラバスに載せる。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	経営学部の専門科目の一部においてリアクションペーパーのオンライン化を導入し、教員－学生間および学生同士の相互理解が進んだ。また、2019年度の経営学総論ではオンデマンド授業の採用が行われる予定である。さらに、2019年度のシラバスにおいて、アクティブ・ラーニングの採用の有無を記載している。
		改善策	アクティブ・ラーニングの具体的な方法についての記述をシラバスに掲載することを検討する。
		質保証委員会による点検・評価	
所見		・反転授業の導入を検討するという年度目標に係る達成目標はおおむね達成されているものと評価できるが、アクティブ・ラーニングを一層進めるという中期目標に向けて、一層の努力が望まれる。 ・授業内容や受講者数等さまざまな要因があるので、性急かつ一律的な「アクティブ・ラーニング」化は慎重に考えてほしい。	
改善のための提言	・アクティブ・ラーニングを一層進めるという中期目標に向けて、いかなる分野でどのような形式の授業が可能かを組織的な形で検討する必要があるのではないかと思われる。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
6	中期目標	分野の特性に応じた学習成果の測定方法について検討を行う。	
	年度目標	2019年度の新カリキュラム導入に向けて、具体的な学習成果の把握や評価方法について検討を行う。	
	達成指標	教学問題委員会および教授会で検討を行う。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	2018年7月の教学問題委員会では、新カリキュラムの導入に向けて、入門外国語経営学を中心とする学習成果の把握や評価方法についての検討を行った。
		改善策	2019年度から10段階の成績評価方法へ移行するが、そのことも踏まえて、入門外国語経営学以外の科目についても、分野の特性を生かした学習成果の測定方法について、学部全体で検討を行っていききたい。
		質保証委員会による点検・評価	
所見		・具体的な学習成果の把握や評価方法は数年来の課題となっているが、非常に難しい課題であることを考慮しても、中期目標の達成に向けた進捗のスピードが遅いように思われる。 ・これはなかなかの難問である。	
改善のための提言	・学習成果の測定方法に関して他大学の例を網羅的に調査し、どのような方法が可能かを具体的に検討することも必要ではないかと思われる。 ・同一タイトルの授業を複数の教員がクラス指定で担当する場合、学生の不満が多い傾向がある。まずはそのような場合（例えば、入門専門科目）から具体的に検討するのが現実的		
No	評価基準	学生の受け入れ	
7	中期目標	グローバルな人材の積極的な受け入れを図る。	
	年度目標	GBPの受験者増を目指す。	
	達成指標	GBPの受験者2割増を目指す。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
理由	GBPの2019年度入試は、1月に指定校推薦入試が行われ、昨年度の2.5倍の応募があった。		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		また、3月に自己推薦入試の募集が行われ、昨年度の1.7倍の応募があった。	
	改善策	完成年度を迎える2020年に向けて、GBPの入試のあり方を検討し、グローバルな人材の積極的な受け入れに取り組んでいく。	
	質保証委員会による点検・評価		
	所見	<ul style="list-style-type: none"> ・年度目標に係る達成目標はおおむね達成されているものと評価できる。ただ、グローバルな人材の積極的な受け入れは、入試の公正性の確保が前提条件となる。外国人留学生の入試選抜は様々な問題を惹起することが想定されるが、入試の公正性に万全を期してもらいたい。 ・大学ホームページで、GBPの案内が見つけにくいという問題がある。 	
	改善のための提言	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人の入試の公正性を確保するために、関係部局と連携を図りながら早急に体制整備に努めてもらいたい。 ・法人への要望として、日英両語とも、GBP（あるいは、英語による経営学学位など）が検索しやすいよう、工夫して頂きたい。 	
No	評価基準	教員・教員組織	
8	中期目標	カリキュラムにふさわしい教員組織を備えるべく、教育研究の適性やバックグラウンドのバランスに配慮した多様な教員組織を目指す。	
	年度目標	教員の採用に際し、科目の適性に応じて学術研究経験または実務経験を考慮した採用を行う。また、日本語だけでなく、英語でも質の高い教育を提供できる教員の採用を目指す。	
	達成指標	教員採用の際に、書類や人事セミナーにおいて、採用候補者のバックグラウンドや能力の確認を行う。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	今年度の教員採用では、従来の学術研究の実績のみならず、実務経験を考慮して審査を行った。また、経営学部日本語プログラムの授業だけでなく、GBPの授業も担当できる英語力・教育力を備えた人材を採用することに注視して審査を行ったが、残念ながら、今年度は適任の人材を採用することができなかった。来年度以降も、今年度と同様の観点で審査を行い、多様な教員組織を目指したい。
		改善策	来年度以降も採用候補者の多様なバックグラウンドや能力を評価し、質の高い教員の採用を実現したい。ただし、考慮すべき観点が増えると、評価方法も難しくなるので、どの点を最重要項目にするかを予め人事小委員会で審議する必要がある。
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	<ul style="list-style-type: none"> ・教員組織の整備は学部発展の極めて重要な課題である。質の高い教員の採用に向けて、執行部の努力は評価できる。なお、60歳以上の教員が多いことから、今後退職者が増えることが予想されるので、学部の年齢構成のバランスにも十分配慮し採用人事を進めてもらいたい。 ・2019年度の採用人事を見守りたい。
	改善のための提言	<ul style="list-style-type: none"> ・採用形態の多様化を図ることも今後検討する必要があるのではないかとと思われる。 ・左記参照。法人には、経営学のある特定専門分野で、日英両語で適切に講義できる人材となると、かなりハードルが高くなることを認識して頂きたい。 	
No	評価基準	教員・教員組織	
9	中期目標	教員間の相互学習をさらに強化する。	
	年度目標	教員自身の英語教育力の強化について学ぶ機会を設ける。	
	達成指標	FDまたはGBP委員会において、教員自身の英語教育力の強化に関してどのような工夫を行っているか紹介する機会を設ける。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
理由	2月のGBP小委員会では、複数の教員が自身の英語教育力の強化のために、本学で展開されているアカデミック・サポートを利用し、教材やシラバスなどのネイティブチェックを受け		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

			ていることが報告された。	
	改善策		引き続き、教員自身の具体的な英語教育力の向上に向けた取り組みおよびその効果について調査したい。	
		質保証委員会による点検・評価		
	所見		・年度目標に係る達成目標はおおむね達成されているものと評価できる。引き続き、中期目標に向けて取り組んでもらいたい。 ・組織的な対応が望ましいが、本学部の担当教員は日英両語の授業を担当していることが多く、時間制約が厳しいと思う。何らかの時間的配慮が必要。	
	改善のための提言		－	
No	評価基準		学生支援	
10	中期目標		成績不振な学生や日本語のできない留学生へのきめ細かな支援・指導を行う。	
	年度目標		成績不振の学生には個別の面談や履修指導を行う。また、日本語のできない留学生には、支援の要請に対して、学生の視点に立ったサポートを行う。	
	達成指標		成績不振の学生に対しては、執行部と学部事務担当者による面談を実施し、その記録を整理集計する。日本語のできない留学生には、個別の相談や支援を行い、内容によっては GBP 小委員会や教授会で対応方法や解決策を検討する。	
	年度末報告		教授会執行部による点検・評価	
		自己評価		S
		理由		成績不振の学生に対しては、9月と3月に執行部と学務部の担当者が面接を行った。また、GBPの学生に対しては、学習や生活で困難なことが生じた際に個別の面談を行い、さらに状況に応じて、関係各所に支援依頼などの対応を行った。加えて、GBP生の学習や生活の実態を把握するため、ヒアリングを実施した。
		改善策		引き続き、成績不振学生や学習・生活について支援を必要とする学生に対して、丁寧に対応していく。
			質保証委員会による点検・評価	
		所見		・年度目標に係る達成目標はおおむね達成されているものと評価できる。引き続き、中期目標に向けて取り組んでもらいたい。また、留学生の生活面のサポートは留学目的の実現にとって極めて重要であると思われる。このサポート体制の充実に一層取り組む必要がある。さらに、新カリキュラムの実施に伴う学習面での困難の有無の把握に努めてもらいたい。 ・当面の推移を見守りたい。
	改善のための提言		・留学生の生活面でのサポートについては、何が可能かを関係部局と連携しながら検討する必要があると思われる。	
No	評価基準		学生支援	
11	中期目標		不正行為に対して厳しく対処する。	
	年度目標		不正行為への注意喚起を組織的に実行する	
	達成指標		ハンドアウトやビデオを作成し、演習等で学生への配布・視聴の機会を設けて、不正防止の啓発活動を行う。	
	年度末報告		教授会執行部による点検・評価	
		自己評価		S
		理由		不正行為への注意喚起の一環として、啓発のためのハンドアウトを日本語および英語で作成し、経営学部全教員に配布し、ゼミや授業で配布する機会を設けた。
		改善策		日本語だけでなく、英語での注意喚起のオリジナル資料を作成したので、学生に広く配布し、今後の入学者に対しても啓発活動を丁寧に続けていく。
		質保証委員会による点検・評価		
所見		・年度目標に係る達成目標はおおむね達成されているものと評価できる。引き続き、不正行為の予防に取り組んでもらいたい。 ・当面の推移を見守りたい。		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		改善のための提言	－	
No	評価基準	社会連携・社会貢献		
12	中期目標	企業等との連携による教育プログラムを一層拡充する。		
	年度目標	GBP のインターンシップを開講する。		
	達成指標	GBP のインターンシップの派遣先を設け、インターンシップの内容に関して派遣先企業と打ち合わせを事前に行った上で実行する。		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	2018 年度に GBP のインターンシップを開講し、2018 年 9 月に 1 社 1 名の学生を派遣し、英語によるインターンシップを行うことができた。2019 年度には、4 件 10 名程度に拡大する予定であり、実施に向けて、半年以上を掛けて担当教員が派遣先の選定や各派遣先の担当者との事前打ち合わせを行い、内容の充実を図っている。	
		改善策	2018 年度のインターンシップ派遣先は 1 社のみ、受講生は 1 名であった。2019 年度は派遣先が拡大し、業種や企業規模も多様化するため、受講者数も増えると考えられる。	
		質保証委員会による点検・評価		
		所見	<ul style="list-style-type: none"> ・年度目標に係る達成目標はおおむね達成されているものと評価できる。引き続き、受講者数の拡大に向けて取り組んでもらいたい。 ・当面の推移を見守りたい。 	
		改善のための提言	－	
No	評価基準	社会連携・社会貢献		
13	中期目標	海外の大学との連携を深め、多様な教育プログラムを提供する。		
	年度目標	中信金融管理学院（台湾）との提携を目指す。		
	達成指標	中信金融管理学院（台湾）との調印式を行い、具体的な交換プログラムの策定・検討を行う。		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	B	
		理由	提携の一環として、中信金融管理学院から法政大学への編入の学生を迎えたものの、大学間の調印式は行っておらず、交換プログラムの策定・検討も保留となっている。しかし、大連工業大学（管理学院、中国）との間で 2020 年スタート予定の学士課程連携プログラムを進めており、科目の読み替えのための作業に加えて、2019 年 3 月には教職員が中国を訪れ、先方との最終調整を行っている。	
		改善策	中信金融管理学院とは、GBP インターンシップの派遣先に関する協力が提携に関する項目に挙げられていたが、2018 年度は先方の都合がつかずに実現できなかった。そのため、調印式についても実現していない。今後は、先方との協力の下、連携を目指す。また、他の海外の大学との連携についても、具体的なプログラムの策定について検討を行いたい。	
		質保証委員会による点検・評価		
		所見	<ul style="list-style-type: none"> ・海外の他大学との連携は相手のあることなので、執行部の努力にもかかわらず今年度達成目標を達成できなかったことはやむを得ないことと思われる。 ・当面の推移を見守りたい。 	
		改善のための提言	<ul style="list-style-type: none"> ・現在進めている大連工業大学との提携など、中期目標に向けて取り組んでもらいたい。 ・海外からは夏季プログラム（通常 6、7 月）のニーズもあるが、本学の夏季休暇とタイミングが合わない。法人が短期留学生の受け入れ増加を本気で考えるなら、その点の検討も不可避である。 	
【重点目標】				
2019 年度の新カリキュラムに対応したカリキュラムポリシーやカリキュラムツリー・カリキュラムマップを改訂し、初年次専門科目の具体的な授業内容・授業担当者・時間割を決定する。また、新旧カリキュラム併存期間における科目の読み替えに関する具体案を決定する。施策としては、主に初年次科目を担当する教員で構成されるプロジェクトチームを立ち上				

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

げ、プロジェクトチームのメンバーを中心に各グループで具体的な内容を検討してまとめ、検討結果を教学問題委員会および教授会で審議・決定する。

【年度目標達成状況総括】

今年度の教学問題委員会は、新カリキュラムの初年次科目である専門入門科目 8 分野からそれぞれ 1~2 名の若手教員によって構成されており、年間を通じて新カリキュラムについて話し合いが行われた。また、新カリキュラムに対する教員の理解を深めるために教授会の冒頭に 2 回の勉強会が開かれ、学生への周知に向けて教員と学生で構成される「新カリキュラム履修お助け隊」が結成されるなど、2019 年度開講に向けて準備が進んでいる。新カリキュラムを含めたシラバスの在り方やアクティブ・ラーニングに対する取り組みについては、大半の目標が十分に達成されたが、今後も引き続き積極的に取り組み、新カリキュラムによる学部教育を滞りなく進めて参りたい。また、GBP については、履修の促進、学生へのきめ細かい支援、学生の受入については目標を達成しているが、今後はインターンシップの拡充や教員自身の英語教育力の向上についても一層取り組んで参りたい。海外との提携については、現状にとどまらず、多様な取り組みが必要である。

【2018 年度目標の達成状況に関する大学評価】

2018 年度目標は適切に設定され、ほぼすべてについて目標を達成している。特に、重点目標である 2019 年度開始の新カリキュラムの準備を周到に進めてきたことは高く評価できる。教員と学生で構成される組織を設置するなどの工夫が見られた。シラバスの在り方やアクティブラーニングの導入をどのように新カリキュラムに取り入れていくのか今後の取り組みが期待される。GBP については、きめ細かい学生支援の体制がとられている。一方、海外大学との連携は難しい点があることは十分に理解できるものの、GBP との連関を鑑みると、さらなる取り組みを期待したい。

IV 2019 年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関する事】
1	中期目標	新カリキュラムへの移行に伴い、1 年次から経営学の入門的な内容を分野別に広く学ぶ仕組みを実現させる。
	年度目標	新カリキュラムをスタートさせる。
	達成指標	新カリキュラムで新たに開講する 1 年次対象の専門入門科目および新カリキュラムで新たに選択必修化するグローバル・ビジネス/GBP 科目を滞りなく実施する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関する事】
2	中期目標	英語で専門科目を学ぶ機会を増やす。
	年度目標	GBP のインターンシップを充実させる。
	達成指標	複数の協力企業に学生を派遣し、日本の経営について英語を使って実践的に学ぶ機会を提供する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関する事】
3	中期目標	英語で専門科目を学ぶ機会を増やす。
	年度目標	新カリキュラムの選択必修科目、グローバル・ビジネス/GBP 科目をスタートさせる。
	達成指標	入門外国語経営学をはじめとする新カリキュラムのグローバル・ビジネス/GBP 科目において、履修を促進させる。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関する事】
4	中期目標	新カリキュラムへの移行に伴い、シラバスの標準化を目指す。
	年度目標	新カリキュラムのシラバスの標準化を進める。
	達成指標	新カリキュラムに対応したカリキュラムツリー・カリキュラムマップの改訂をはじめめる。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関する事】
5	中期目標	アクティブ・ラーニングを一層進めていく。
	年度目標	アクティブ・ラーニングの具体的な方法について、学生に周知する。オンデマンド授業を進める。
	達成指標	アクティブ・ラーニングの具体的な方法についての記述をシラバスに掲載する。オンデマンド授業を実施する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関する事】
6	中期目標	分野の特性に応じた学習成果の測定方法について検討を行う。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

	年度目標	2019年度の新カリキュラム導入に向けて、具体的な学習成果の把握や評価方法について検討を行う。
	達成指標	新カリキュラムで導入される専門入門科目や新カリキュラムで選択必修化される入門外国語経営学を中心に、学習成果の把握や評価方法について、教学問題委員会および教授会で検討を行う。
No	評価基準	学生の受け入れ
7	中期目標	グローバルな人材の積極的な受け入れを図る。
	年度目標	GBPの応募者は順調に増えているので、今後はこれまで以上に多様な学生を受け入れられるように検討を行う。
	達成指標	GBPの完成年度に向けて、指定校推薦入試・自己推薦入試等の在り方についてGBP小委員会や教授会等で検討する。
No	評価基準	教員・教員組織
8	中期目標	カリキュラムにふさわしい教員組織を備えるべく、教育研究の適性やバックグラウンドのバランスに配慮した多様な教員組織を目指す。
	年度目標	教員の採用に際し、科目の適性・学術研究経験や実務経験・多様な雇用形態などを複合的に考慮した採用を行う。また、日本語だけでなく、英語でも質の高い教育を提供できる教員の採用を目指す。
	達成指標	教員採用の際に、書類や人事セミナーにおいて、採用候補者のバックグラウンドや能力の確認を行う。
No	評価基準	教員・教員組織
9	中期目標	教員間の相互学習をさらに強化する。
	年度目標	グローバルビジネス/GBP科目に関するファカルティ・ディヴェロップメントの機会を設ける。
	達成指標	2019年度から選択必修化するグローバル・ビジネス/GBP科目について、担当教員を中心に、授業の工夫をどのように行っているか紹介を行う機会を設ける。
No	評価基準	学生支援
10	中期目標	成績不振な学生や日本語のできない留学生へのきめ細かな支援・指導を行う。
	年度目標	成績不振の学生に個別の面談や履修指導を行う。また、日本語のできない留学生には、支援の要請に対して、学生の視点に立ったサポートを行う。
	達成指標	成績不振の1～3年生に対しては、執行部と学部事務担当者による面談を実施し、その記録を整理集計する。日本語のできない留学生には、個別の相談や支援を行い、内容によってはGBP小委員会や教授会で対応方法や解決策を検討する。
No	評価基準	学生支援
11	中期目標	不正行為に対して厳しく対処する。
	年度目標	カンニングや剽窃などの不正行為に関して、資料を用いて学生に説明し、不正行為に対する注意喚起を組織的に行う。
	達成指標	オリエンテーションや演習・講義等の授業内で不正行為防止に関するハンドアウトの配布やビデオの視聴の機会を設けて啓発活動を実施する。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
12	中期目標	企業等との連携による教育プログラムを一層拡充する。
	年度目標	経営学部創立60周年記念事業を行い、その中で実践知をテーマとした講演会や座談会を開催する。
	達成指標	経営学部の教職員・在校生だけでなく、卒業生や学生の保証人も含めて組織的な事業を展開し、学内外に活動を公開する。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
13	中期目標	海外の大学との連携を深め、多様な教育プログラムを提供する
	年度目標	海外の大学との提携を目指す。
	達成指標	海外の大学の担当教職員と交流や話し合いを進め、提携につなげる。
【重点目標】		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

新カリキュラムをスタートさせる。施策としては、新カリキュラムで新たに開講する1年次対象の専門入門科目および新カリキュラムで新たに選択必修化するグローバル・ビジネス/GBP科目を滞りなく実施する。

【2019年度中期・年度目標に関する大学評価】

重点目標が、2018年度の新カリキュラムの検討から、2019年度は新カリキュラムの実施へと変更された。これは、現在進行中の新カリキュラム導入およびGBP科目の発展に重点を置かれた適切なものであると評価できる。新カリキュラムでの学習成果や評価法の検討、GBP完成年度に向けた多様な学生の受け入れの検討、成績不振学生や留学生のサポートについて、具体的な方策の実行を期待したい。

【法令要件及びその他基礎的要件等の遵守状況】

特になし

【大学評価総評】

経営学部では、自由な発想力、積極果敢な行動力を持った世界で活躍できる人材の輩出を目指し、GBPの設立や新カリキュラムの導入など先駆的な取り組みが実施されている。教育効果についての検証が研究面と教育面から実施されている点は高く評価でき、GBPや新カリキュラムのさらなる改善に向けて、適切なフィードバックが履行されることを期待する。また、海外からの有能な人材の受け入れは、GBPの成功と一般カリキュラムの学生へのポジティブな影響を鑑みると、重要な課題と思われる。留学生を対象に、学習支援のみならず生活の支援も含めたサポート体制の強化を期待する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。